



山椿

Yamatsubaki 87

Chiba Hiroshi

千葉博 (46期)

労働法、会社法、保険法を中心とした企業法務を専門として、あっという間に30年が経ちました。弁護士になったのと平行してスタートしたのが、「講師」としての自分です。

始まりは、司法修習に入る前でした。学生時代に東大受験専門塾・鉄緑会で講師をしていたことも見込まれ、司法試験予備校である「Wセミナー」で講師としてスタートを切ったのです。修習を終えて弁護士としてデビューすると、基礎講座といった基幹講座を担当することになり、年々、受講生の数も増え、担当する講座も増えていきました。渋谷マークシティでワンフロアを借り切って、教室を埋める生徒さん達にお話をするのは、非常にやりがいのある瞬間でした。

当時、保険関連業務を中心に扱う事務所でお世話になっていた私の一日は、300件以上の事件を抱え、訴訟・調停・紛争処理センター等のみならず、ときには暴力団関連の相手方との交渉もあり、緊張感にあふれ、世間のドロドロしたところにもどっぷりつかったものでした。

これに対して予備校は、将来法曹になることを夢見た学生さん達が目を輝かせてやってくる世界です。日中の実務の世界とのギャッ

プは、私にとっても大きな救いとなるものでもありました。

「真剣に努力している人には徹底的につきあう。」これが私のモットーです。やる気のある人には何かもっと応えてあげる場が欲しい。そう思った私は、夜10時の講義後に、自主ゼミをすることにしました。私の講義を取っているかいないかに関わらず、来たい人は受け入れる、全くの自主参加のゼミです。論文の問題を題材に、徹底的に議論し、問題点を解明する。盛り上がったときには終電を逃してしまい、タクシーチケットを配布して帰ってもらうなどということもありました。

一緒に勉強した方の多くが、実務で活躍されています。事件の相手方の先生が、和解が成立したときに「実は昔、先生の刑事訴訟法の教材で勉強しました」と打ち明けてくれたりすることもしばしばです。弁護士だけではなく。裁判所で、突然初対面の書記官さんから、「先生の講義を受けてました」と声をかけられたときの驚きも嬉しいものです。

現在では、司法試験受験界からは離れましたが、ここ20年来、銀行総研系を中心としたビジネスセミナーで、社会人の方を相手に年100回ほど、短時間から一日のセミナーでお話しさせていただいて



筆者近影

います。

講師としての活動なくしては今日の自分はあり得ませんでした。鉄緑会では、当時の生徒さんが多く社会で活躍されているのはもちろん、講師OB会の会長として、各界で名をなしている元講師の方と、貴重なお付き合いをいただいていますし、司法試験の講師としてもいまや実務の中核を担っている多くの先生方とのつながりをいただきました。そして今も、生々しい問題と直面している会社役員や従業員の方と、多くの新しい経験を積ませていただいています。

今後は、日本に来てビジネスを行っている外国人の方に向けて、英語でセミナーを展開していきたいと考えています。そのためには、実務家としての自分も磨かなければ。そう考え、今も、日々、いいプレッシャーを感じながら勉強する毎日です。

